「学ぶ」は、ときめき。
気持ちがあれば誰でも挑戦できる。
迷う時間、残っていませんよ！

もう一度、女学生

緑豊かな美しいキャンパスに長年憧れていたと話す2人。「この歳になって夢が叶いました。これだけでも心が躍り、幸せを感じます」。

若かりし頃、大学進学をあきらめた人、
50歳を過ぎ、新たな生きがいを求める人など
さまざまな思いを胸に、シニア世代から
「もう一度、学びたい」という人が増えています。
その気持ちに応え、多くの大学がシニア向けに
学び場や入試制度を設けているのはご存知ですか？
そうした機会を利用し、今、第二の学生生活を
謳歌している女性が全国にたくさん！
新しいことを知る喜び、新たな人との出会いに
心をときめかせ、笑顔があふれています。

撮影／伏見早織（本誌）　取材・文／オカモトノブコ

立教セカンドステージ大学

（東京都 豊島区）

人生のセカンドステージを踏み出すための新しいキャンパスとして平成20年設立。シニア世代向けの教養教育が充実しています。

念願の大学生活が実現。幸せを実感しています

（矢野さん）

人生の新しいステージを豊かにする「学び」の力

50歳以上の「学び直し」と「再チャレンジ」をかかげる立教セカンドステージ大学（以下RSSC）。現在は8期生が、忙しくも充実したキャンパスライフを送っています。

「説明会で訪れたときはまず、落ち着いた雰囲気の素敵な学校だな、と。最初は若い学生に気おくれしないか心配でしたが、ここでは世代を超えて学ぶことが、ごく自然に受け入れられているように見えたのが印象的でした」（矢野さん、以下矢野）

多くの人生経験を積み重ねたシニア世代だけに、経歴や志望動機も人によってさまざま。けれど共通するのは「学び」に対する強い意欲です。

「私の場合、主人に先立たれ、子どもが巣立った後に、自分がまるで用無しのように感じてしまったんですね。何か人の役に立ち、自分の将来にも活かせることを学びたい……。そう思ったときに見つけたのがこの大学でした」（矢島さん、以下矢島）

入学試験のかわりに必要となるのが、志望理由をテーマとした課題エッセイの提出。原稿用紙3枚程度と決して簡単に書ける量ではありませんが、2人は「人生を振り返るいい機会になった」と口を揃えます。

「父親の反対で進学をあきらめた私にとって、大学入学はリタイア後の念願でした。いろいろなことを学んで教養を高めたい、と素直な気持ちをつづると、意外なほど自然に言葉が出てきた気がします」（矢野）

生活に根差した学問で知識欲がどんどん広がる

RSSCのカリキュラムで特徴的なのは、シニア世代の社会貢献、生きがいの創造を後押ししながら、次のライフステージをより豊かに生きるための糧となる科目群の数々です。

「『地域ケアと看取り』という科目は、在宅で長く介護を続けた私にとって、まさに目から鱗の連続でした。『あのときもっと知識があれば』と学びの重要性を改めて実感しましたが、今後はこの経験を地域などで役立てられたらと思います」（矢島）

こうした独自の科目群に加えて、一般の学部学生（4年制）の授業である全学共通カリキュラムを半期に2科目まで受講できるのも魅力。息子や娘より若い学生たちと机を並べて学ぶ経験は「楽しくて刺激になる」という声が多いのだとか。

「正直、これほどみっちり勉強する

蔦（つた）が生い茂る校舎を前に、同級生と語らう時間もキャンパスライフの大切なひとコマ。合宿の思い出話に花が咲きます。

この2人にお話を伺いました

57歳

矢島元子（やじま ゆきこ）さん

短大卒業後、22歳で結婚。離婚を経て、40代で再婚。その後、夫、義母、姉の看取りを経験。現在は夫の会社を引き継ぎながら、学ぶ日々。趣味はお茶、陶芸。

矢野勝子（やの かつこ）さん

約20年の専業主婦時代を経て、40代から勤めに出て、今年5月に退職。働きながら、宅地建物取引士資格試験などに合格した努力家かつ勉強家。

70歳

新しい興味がどんどん広がり学ぶことの楽しさを体感

（矢島さん）

のも安心できる点といえそうです。

人との出会いとつながりが卒業後も大きな財産に

RSSCでは野外での授業や課外活動も多く、学生同士の親睦が深まりやすい校風も魅力のひとつです。「ゼミの後は毎週、飲み会が(笑)。ゼミ仲間と一緒に鎌倉の寺めぐりや観劇に行ったことも。一生つき合える素敵な仲間と出会えたことは、何よりの財産ですね」(矢野)

修了後も自主的に運営される各期の同窓会、さまざまな研究会や同好会などが数多く設立され、活動の輪は年々大きな広がりを見せています。「先輩からは『いろいろな研究会に入るといいよ』とアドバイスをいただきました。8期からは、ゴルフ同好会や絵画鑑賞会を立ち上げる話があるみたいですね。さまざまな職種や人生経験を持つ方々との出会いは、普通に生活するだけではありえない刺激でいっぱい。こうした人脈の広がりには、本当に感謝しています」(矢島)

学びと大勢の人との出会いによって好奇心が引き出され、人生の輪が大きく広がった2人。そして、その先に見えたものとは?

「どんなに小さなことからでも、残りの人生は誰かのために貢献していければ幸せですね。人の温かさを実感させてくれるRSSCでの経験をもとに、これからも一生、学び続けていきたいです」(矢野)

新しい出会いと学びの連続はまさに第二の青春です

(矢島さん)

入学するには

〈概要〉本科は1年間のカリキュラム。修了後、希望者は1年間の専攻科もある。本科修了後1年以上経過した卒業生を対象に科目聴講生制度もあり。本科の受講料は30万円。その他登録料は10万円。

〈出願資格〉入学する年の4月1日現在、満50歳以上で、高等学校を卒業またはこれに準じた学力があると認められる人

〈選考方法〉書類選考(履歴書・課題エッセイ)、面接試験

〈募集期間〉12月中旬〜1月中旬

〈その他〉出願期間中は入試説明会・公開講演会も実施。問立教セカンドステージ大学事務室 ☎03-3985-4672

修了生にもお話を伺いました

たくさんの人から刺激を受け、想像もしない自分に出会えました

3年前にRSSCを修了した5期生の三船さん。現在も同級生との絆は深く、新しいことにもチャレンジし続けています。

三船美枝(みふね みえ)さん(65歳)

49歳の時にご主人を亡くし、長年の専業主婦生活から突如フルタイムで勤務する日々に。働くうちに学びたい、という気持ちが沸き、52歳で立教大学に入学。

三船さんの修了論文。日本の後見人制度についてまとめた。「すごく大変だった分、充実感がありましたね」。

実は、RSSCに入学する前、立教大学の法学部に4年間通っていたんです。毎朝6時半に家を出る生活を続けていました。ケガをして松葉杖で通った時期もあって(笑)。本当に一生懸命勉強しました。電車の中、図書館、家でも! それが楽しくて仕方がなかったのです。あれもこれもやるのが好きな性格なので、まったく苦にはならなかったですね。

大学卒業後、行政書士の勉強をするスクールに通っていた頃、知り合いの方から「RSSCは楽しいわよ」と伺って。行政書士と並行しながらでも大丈夫そうだったし、立教大学は馴染みがあったので思い切って入学しました。

一番驚いたのは、同世代の女性に、これほど若々しく魅力的な方がたくさんいたのかということ。年齢なんて関係ない、枠を自分で勝手に決める人生はつまらないな、と思いました。おかげで興味の範囲が広がり、度胸もつきました。

RSSC修了後も、研究会の活動は続いてますし、同窓会も定期的にあり、新しい出会いが今も広がっています。道は自分で切り開いていけると知りました。

現在、同級生とNPO法人を立ち上げ福島を応援!

今、三船さんが一番力を入れている活動。月1回は福島に行き、オーガニックコットンを育てている。「現地の方と交流も生まれ、とにかく楽しい!」。

大学生活で得る、人の温かさと思いやりは一生の宝物

（矢野さん）

とは思いませんでした(笑)。けれど、知らない分野の知識がどんどん増えるのは本当に楽しい。以前の私からは考えられないほど、今、毎日がとっても充実しています」(矢島)

自分が興味を持った物事を卒論テーマとして研究

さらにRSSCで最大の特徴ともいえるのが、全学生がゼミに所属し、修了論文を作成すること。指導教員の指導のもとで1年間研究を続けるには、資料集めを始め、相応の時間と努力が必要とされます。

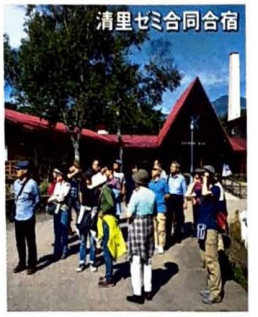
「私の場合、卒論テーマを中心に知識が広がるのをむしろ楽しく感じています。ゼミの授業でたまたま出身地である山形県の名君・米沢藩主の上杉鷹山(ようざん)が取り上げられたんですが、その生き方に興味を持ち、卒論テーマに決めました。米沢にある博物館へは何度も足を運びましたが、行くたびに新しい発見があって。当時の大名屋敷跡を訪ねては、歴史に思いを馳せています」(矢野)

卒論やレポート作成、また連絡用のメールなど、慣れない作業に最初は戸惑う人も多いようですが、大学ではパソコン教室の開催、論文の書き方指導などサポート体勢も万全。学生同士の勉強会なども盛んで、シニアへの学習環境が整えられている

「憧れの段々机で勉強するのがうれしい」と矢野さん。授業は教室での座学が基本だが、現地に行くことも。植物園や霊園の見学会など多種。合宿やクリスマス会など行事も多い。

フィールドスタディは毎回、大好評!

里山・河川観察会



清里ゼミ合同合宿

授業以外の活動が盛ん。知識も交流もより深まる

各自さまざまな交流をはかっているRSSCの学生たち。行動的な矢島さんの交友関係をちょっとのぞき見。

没(ぼつ)イチの会

配偶者に先立たれた在校生、卒業生が有志で集まった会。自分の死について考える授業を担当している小谷先生も参加！

"配偶者を看取る"という同じ経験をしているからこそ、わかり合える話題も。「変な遠慮がないから、素直に話せるんですよね」。

矢島さんと同級生の山本節子さん(62歳)。5年間の闘病の末、ご主人は他界。「寂しさは常にありますが、夫のためにも「私たちは2人分の人生を楽しまないと」とみんなで話しています」。

教授&同級生とゴルフ旅行

群馬県の嬬恋へ。ゴルフだけでなく、町の観光復興を目的としたフィールドワークも実施。どうしたら西吾妻が再び活性化するのか熱く語り合いました。

プラチナ社会創造研究会

講演会や勉強会(丸の内プラチナ大学)に参加。知識が自然に広がっていきます。RSSC生だけでなく、さまざまな方がいらっしゃるので新たな出会いも。

ゼミ仲間と昼食会

夏休み中に集まって、会員制ホテルでランチをしました。豪華な吹き抜けのエントランスで記念撮影。楽しかったですね。